

# 財団法人 損保ジャパン美術財団

## 平成17年度(2005年度)事業計画

(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

### 方針

1. 展示活動を活発に行い、多くの人々に親しまれる美術館として美術文化の振興につとめる。  
このため、
  - (1) 特別展においては当美術館としての特性を生かし、国内・外美術館等から優れた美術品を招致する。
  - (2) 館外展を含め館蔵作品の貸し出しを通じて、国内・外地域との文化交流を図る。
2. 優れた美術家の表彰ならびに支援によって美術界の発展に寄与する。
3. 社会教育、特に青少年を対象とした教育・普及活動を推進する。
4. インターネットのホームページを充実し、展覧会などの情報サービスを強化する。

# 損保ジャパン東郷青児 美術館の運営

## 1. 展示

### (1) 常設展示

ゴッホ「ひまわり」、ゴーギャン「アリスカンの並木道、アルル」、セザンヌ「りんごとナブキン」を原則として常設展示する。

### (2) 特別展

①南仏モンペリエ フェアブル美術館所蔵「魅惑の17-19世紀フランス絵画展」  
平成17年4月23日  
～7月15日

19世紀フランス美術を中心とする優れたコレクションを誇る「フェアブル美術館」の主要作品90点を紹介する。なかでも、クールベの「出会い、こんにちはクールベさん」が日本で初めて紹介されるのは大きな反響を呼ぶだろう。

共催：読売新聞東京本社

②「ベルナール・ビュフェ展」  
平成17年7月23日  
～8月28日

フランスの現代具象絵画の巨匠、ベルナール・ビュフェの作品約80点を展示し、偉大な功績を回顧する。ビュフェ美術館（静岡県）所蔵作品で構成。

共催：朝日新聞社

③「プラート美術の至宝展」  
-フィレンツェに挑戦した都市の物語-  
平成17年9月10日  
～10月23日

フィレンツェ市近郊の小都市プラート市。市が伝承する「聖母マリアの聖帯伝説」を描いたフィリッポ・リッピの作品のほか、フィレンツェというルネサンス文化都市に対抗して形成された芸術コレクションを14～18世紀の絵画を中心に紹介。

共催：日本経済新聞社

④第27回損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞記念「池口史子展」（いけぐち ちかこ）  
平成17年11月3日  
～12月11日

第27回となる「損保ジャパン東郷青児美術館大賞」を受賞した作家、池口史子の個展。

後援：読売新聞東京本社

⑤「DOMANI・明日」展 2006  
平成18年1月21日  
～3月1日

文化庁の芸術家在外研修（新進芸術家海外留学制度）で派遣された研修生の帰国後の成果を披露する展覧会。本年度は日本画部門で活躍している作家の作品を紹介する。

共催：文化庁 読売新聞東京本社

⑥「第25回 損保ジャパン美術財団選抜奨励展」  
平成18年3月16日  
～4月13日

36公募美術団体展で「損保ジャパン美術財団奨励賞」を受賞した平面作品36点と推薦委員により推薦された平面作品約30点を展示。あわせて「財団奨励賞」の立体部門受賞者の立体新作を展示する。両部門それぞれ毎に展示作品を対象に優れた作品を選

<p>(3) 所蔵作品展  ①平成17年12月17日  ～平成18年1月14日</p> <p>②併設展示</p> <p>(4) 館蔵品の貸出  ①館外展</p> <p>②主要館蔵品貸出</p>	<p>考、表彰する。  共催：産経新聞社</p> <p>作品を中心に他所蔵品を展示する。</p> <p>各特別展開催期間中、所蔵作品展示コーナーを併設し、東郷青児作品他を展示する。</p> <p>東郷青児展  会場：長島美術館(鹿児島市)  会期：平成15年10月～11月末(予定)  作品：油彩、素描、彫刻など60点前後</p> <p>現時点なし。</p>
<p>2. 館蔵品・資料・文献の充実</p> <p>(1) 館蔵品の点検および修復</p> <p>(2) 資料・文献の収集</p> <p>(3) パソコンの有効活用による資料・文献の収集・整備</p>	<p>館蔵品の保存状態を的確に把握するため定期的に点検および記録写真の撮影を行い、作品の劣化防止に適切な手段を講じるほか、必要に応じて作品の修復、額縁の修理・取り替えを行う。</p> <p>館蔵品および展示作品に直接あるいは間接的に関連した資料・文献を収集し、学芸研究および展示活動の充実を図る。</p> <p>パソコンの有効活用を図り、資料・文献の収集・整備、インターネットの活用による他館情報などの入手を積極的に行う。</p>
<p>3. 調査・研究</p> <p>(1) 学芸職員の研修</p> <p>(2) 各種図録・解説書の刊行・頒布および説明会の開催</p> <p>4. 公共への協力</p> <p>(1) 博物館実習生の受け入</p>	<p>適切な指導・助言のもとに資料研究あるいは保存・展示技術の研修を進める。また、学会や各種機関の研修会・講座などに参加するほか、特色ある美術館や展覧会の見学などを通じ、学芸員の能力向上を図る。</p> <p>各種展示の理解を助けるため、図録、解説書を作成するほか説明会などを随時開催し、展覧会の充実に役立てる。特に、青少年を対象とした解説書の作成、説明会の実施などを積極的に推進する。</p> <p>各大学からの学芸員資格取得のための博物館実習生の受け入れ要請に協力する(8大学8名予定)。</p>

<p>(2)施設・資料の共用</p>	<p>公共体、教育機関あるいは美術研究者等より、美術に関する調査・研究・実習のため施設および資料共用の要請を可能な限り協力する。</p>
<p>(3)他美術館との連絡・強調</p>	<p>博物館会議、美術館会議などに出席して情報の交換を行うほか、随時見学等を行い、他美術館との連絡・強調を密にする。</p>
<p>5. 広報活動</p>	
<p>(1)マスメディア</p>	<p>新聞、雑誌、テレビ等マスコミの取材に積極的に対応するほか、インターネットの積極的活用を含め広告媒体についても多様化を進め、展覧会および美術館の広報を行う。</p>
<p>(2)ホームページ(インターネットによる発信)</p>	<p>ホームページにおいて自館の展覧会情報、所蔵作品情報とともにゴッホ美術館関係の情報提供を行っていく。</p>
<p>6. 教育活動</p>	<p>学校など外部機関の教育活動としての美術館利用に協力し、教育活動の実を上げる。</p>
<p><b>II 優秀な美術家の表彰</b></p>	
<p>1. 損保ジャパン東郷青児美術館大賞</p>	<p>①第26回(2003年)受賞者の表彰を行い賞状と賞金(200万円)を贈呈する。 ②第27回(2004年)受賞者を1名選考する。(平成16年3月の予定)</p>
<p><b>III 新進美術家の援助育成</b></p>	
<p>1. 損保ジャパン美術財団奨励賞</p>	<p>36団体の公募展に奨励賞を授与する。</p>
<p>2. 損保ジャパン美術財団選抜奨励展及び同展における優秀作品の表彰</p>	<p>第25回展となる本展では、各団体の奨励賞受賞作家の作品(絵画・彫刻)と推薦委員から推薦された作家の作品(絵画)を加えた展覧会を開催し、出品作品の中から優秀な作品を選考、表彰する。 展覧会は共催新聞社の協力を得て広報宣伝に努めるとともに巡回展の開催を検討し、新進美術家支援を積極的に推進する。</p>